

## ロスバスタチン錠5mg「JG」の安定性試験(PTPシート)

### 1. 試験目的

ロスバスタチン錠5mg「JG」はPTPシートをアルミピローに封入したものを紙箱に入れている。本試験ではアルミピローから取り出しPTPシート単独で保存したものの安定性を確認した。

### 2. 保存条件、包装形態

保存条件:

- ・温度に対する安定性試験:40±2℃ 3カ月 [遮光]
- ・湿度に対する安定性試験:25±2℃/75±5%RH 3カ月 [遮光]
- ・光に対する安定性試験:120万lx・hr(4000lx・12.5日) 25℃

包装形態:PTP(ポリ塩化ビニルフィルム、アルミニウム箔)

### 3. 試験項目

性状、溶出性、含量、純度試験(類縁物質)〈参考値〉、硬度〈参考値〉

### 4. 評価方法

「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性試験法について(答申)」(平成11年8月20日(社)日本病院薬剤師会学術第5小委員会)の評価分類基準に準じる。〈安定性の評価基準の項参照〉

### 5. 試験結果

		規格	試験開始時	3カ月後
温度	性状	うすい赤みの黄色～ くすんだ赤みの黄色の フィルムコーティング錠	うすい赤みの黄色の フィルムコーティング錠	うすい赤みの黄色の フィルムコーティング錠
	溶出性(%)	15分間で85%以上	99.5(97.2-101.1)	100.6(98.1-102.1)
	含量(%)	表示量の95.0～105.0% [開始時100%]	98.91 [100]	99.64 [100.74]
	純度試験(%)	<参考値>* <参考値>	検出せず	0.09
	硬度(kgf)	<参考値>	14.6	14.2
	評価			—
湿度	性状	うすい赤みの黄色～ くすんだ赤みの黄色の フィルムコーティング錠	うすい赤みの黄色の フィルムコーティング錠	うすい赤みの黄色の フィルムコーティング錠
	溶出性(%)	15分間で85%以上	99.5(97.2-101.1)	100.6(99.8-101.9)
	含量(%)	表示量の95.0～105.0% [開始時100%]	98.91 [100]	99.33 [100.42]
	純度試験(%)	<参考値>* <参考値>	検出せず	0.04
	硬度(kgf)	<参考値>	14.6	7.8
	評価			—

		規格	試験開始時	120万lx・hr
光	性状	うすい赤みの黄色～ くすんだ赤みの黄色の フィルムコーティング錠	うすい赤みの黄色の フィルムコーティング錠	うすい赤みの黄色の フィルムコーティング錠
	溶出性(%)	15分間で85%以上	99.5(97.2-101.1)	98.9(97.7-100.0)
	含量(%)	表示量の95.0～105.0% [開始時100%]	98.91 [100]	99.17 [100.26]
	純度試験(%)	<参考値>* <参考値>	検出せず	0.04
	硬度(kgf)	<参考値>	14.6	13.2
	評価			—

溶出性:平均(最小-最大) 硬度:1kgf≒9.8N

※0.1%以下(規格及び試験方法が設定されていないため「新有効成分含有医薬品のうち製剤の不純物に関するガイドライン」、報告の必要な閾値を参考とした。)

6. 結論

高湿度下(25°C/75%RH、3カ月)において硬度の低下傾向(規格内14.6kgf→7.8kgf)が認められた。

安定性の評価基準

安定性の評価は、「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性試験法について(答申)」に記載された試験項目毎の評価基準に従って行った。

【性状】

分類	評価基準
変化なし	外観上の変化を、ほとんど認めない場合
変化あり(規格内)	わずかな色調変化(退色等)等を認めるが、品質上、問題とならない程度の変化であり、規格を満たしている場合
変化あり(規格外)	形状変化や著しい変化を認め、規格を逸脱している場合

【溶出性】

分類	評価基準
変化なし	規格値内の場合
変化あり(規格外)	規格値外の場合

【含量】

分類	評価基準
変化なし	含量低下が3%未満の場合
変化あり(規格内)	含量低下が3%以上で、規格値内の場合
変化あり(規格外)	規格値外の場合

【純度試験】

分類	評価基準
変化なし	規格値内の場合
変化あり(規格外)	規格値外の場合

【硬度】

分類	評価基準
変化なし	硬度変化が30%未満の場合
変化あり(規格内)	硬度変化が30%以上で、硬度が2kgf以上の場合
変化あり(規格外)	硬度変化が30%以上で、硬度が2kgf未満の場合

安定性の評価分類

安定性の評価分類は、原則として無包装状態での安定性試験における、保存条件、試験項目および試験結果から、下記の評価分類に従って分類した。

試験結果	評価
測定された全ての試験項目で変化を認めない	◎
いずれかの試験項目で、「規格内」の変化を認める	○
いずれかの試験項目で、「規格外」の変化を認める	△

※平成11年8月20日付「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性試験法について(答申)」(日本病院薬剤師会)に準ずる。

2017年10月

002